学校番号	105

令和３年度　芸術科

教科	芸術	科目	工芸Ⅱ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「工芸Ⅱ」　（日文出版）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・工芸の本質について理解を深める
・「物を作ることは」コツコツと積み上げてできていることを理解する。
・正しい道具の使用法を理解する。
・１年間かけて一つの作品を作り上げるので、自分の進度に合わせた計画を自分で設定する。

２　学習の到達目標

・素材や道具についての理解。
・日本の伝統工芸について理解する。
・正確な加工技術と正確な研磨技術
・他の生徒が作った作品を正しく鑑賞する

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:工芸への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	・工芸の創造活動の喜びを味わい、工芸の生まれてきた歴史や伝統工芸を再考し、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	・完成や想像力を働かせて、心豊かな発想をし、生活の中で使用できる機能や美しさなどを考え、製作の構想を練っている。	・創造的な工芸の制作を行なうために必要な素材の特性や特徴を理解し、その素材に対して必要な技能を身につけ、表現方法を工夫して表している。	・工芸や工芸の伝統と文化を幅広く理化し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。 ・制作する箇所に合わせた道具の制作
評価方法	・観察 ・ワークシート	・観察 ・提出作品 ・ワークシート	・製作態度 ・提出作品 ・ワークシート	・観察 ・自作道具 ・ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	木工	・設計 ・製作 ・荒彫り ・道具制作	○ ○	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○	 ○	a:三面図の作成 b:空間理解と実用装飾 c:ノミの使用方法 c:木目を読む力 c:使いやすい道具の設計 d:正確な道具作り	・観察 ・提出作品 ・ワークシート
2	木工	・製作 ・荒彫り ・荒磨き ・仕上げ彫り ・仕上げ磨き	 	○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	 	b:空間理解と実用性 c:道具使用上の正確性 b:研磨氏の歴史と種類 c:加工道具の歴史と種類 c:研磨紙の使用法	・観察 ・提出作品 ・ワークシート
3	塗装・鑑賞	・最終研磨 ・塗装１回目 ・塗装２回目 ・塗装３回目 ・合評	○ ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ 	○ ○ ○ ○ 	 ○	a:完成予想図→三面図 c:漆の種類と歴史 b:塗装 d:合評	・観察 ・提出作品 ・ワークシート

※　表中の観点について　a:工芸への関心・意欲・態度　b:発想や構想の能力
c:創造的な技能　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。